

ここでしかできない

「特集1」犬島ダンス掌編集「たまゆら」

「特集2」地域で支える市営「塾」 豊後高田市から



公益財団法人 福武教育文化振興財団 創 立 25 周 年 記 念 事 業

「犬島 海の劇場」犬島ダンス掌編集「たまゆら」

公益財団法人福武教育文化振興財団 創立25周年記念事業「犬島 海の劇場」の一環として7月28・29日犬島3会場でヨーロッパを中心に活躍するダンサー、湯浅永麻氏、ミゲル・オリベイラ氏、柳本雅寛氏、楠田健造氏による、ダンス掌編集『たまゆら』を公演しました。

湯浅氏に犬島公演を終えての感想を寄稿していただきました。

ここでしか表現できないコンテンポラリーダンス

湯浅永麻

“たまゆら”は、『すぎてみればほんの一瞬の出来事』という意味です。過去に2回ほど犬島を訪れ、少しでもその歴史などに触れた際に感じた、潮の干満にも似た寄せては返すような人々や産業の到来と繁栄、またたった10年で閉鎖された製錬所のはかなさと、2時間ほどで終了してしまうダンス公演に共通している刹那さをタイトルに込めました。

真夏の犬島で屋外の場所をありのままに使って公演。犬島に実際に滞在して作品を仕上げるのは5日間という状況のうえ、柳本さんと楠田さんは初めての犬島来島であり、リハーサルは予想以上にとても大変でした。

今回の“たまゆら”は、3人のクリエイターによる異なる3作品から構成されています。場所も犬島アートプロジェクトチケットセンター前の芝生エリア(湯浅作品)、家プロジェクトの1つである中の谷東屋(柳本作品)、そして西ノ谷湾岸の砂浜(楠田作品)で行われ、観客に犬島を廻っていただくようになりました。

最初の作品“さよならをもういちど”は、島民の皆様と観客を交えたフォークダンスから始まり、男性のコミカルなデュエットから男女のデュエットで終わります。なぜフォークダンスかという、もう閉校してしまった犬島の学校の運動場を見たときに、きっと島民の方々はこちらではにかみながらフォークダンスを行っていただろうと想像すると、切ない気持ちになり、島民の皆様にぜひ参加していただければと思いました。本番は島民の方では少なかったため、観客の方も巻き込みでのフォークダンスとなりましたが、4日間毎日1時間の練習に来ていただいた島民の方々からは、貴重なお話も聞けて充実した時間になりました。

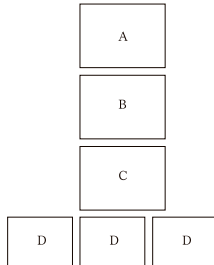
次の尾崎紀世彦さんの“さよならをもう一度”は、その歌詞に訪れては去って行くことを繰り返した人々と犬島との関係をかけています。ダンスはそれに反して滑稽ですが、その代わり最後のジョパンでは一変してシリアスで、2人は終始すれ違っている……。

2作品目の“Fe”は、振り付けした柳本さんが中の谷東屋にインスピレーションを受けられて、とてもスピー

ディーに創作が進みました。とても音響がいい、まあい屋根の中の長さの違う柱を、オリベイラさんが即興的に叩くことによって美しい音の振動が響き、その決して広くはない空間のなかで、音とともに大きく広がって行くような感じにさせられます。観客とダンサーの距離はお互いに触れられるほどで、まさに目の前で柳本さんによるとても緊張感の有るソロから始まり、デュエット、そしてまたソロで終わります。犬島の集落の中に突然現れる、建築家妹島和世さんの装飾の無いシンプルで美しい東屋と、その柱と柱の間をすり抜けていく柳本さん独特のオーガニックで同時に力強い動きのコントラスト、そしてオリベイラさんによる音のインプロ。まさに、サイトスペシフィックな、場所の特性を生かした作品だと思います。

最後の作品“いぬじまのかけら、こけらのけむりのはな”では、音楽に犬島に伝わる犬島音頭がかけらのように現れては消えます。瀬戸内海に浮かぶ島々に霞がかかって遠くに見え、時折横切って行く船が作る波が心地よく浜に打ち上げる。そんな情景の中、楠田さんが1人砂浜にたたずみ、砂の上や水中でソロが繰り返されます。最初、ほかのダンサーは風景になじんでいて、観客からは出演者かどうかわからないほど。そしてゆっくりと遠くから集まっていく……。この作品は当初1作品目に予定していたのですが、公演開始の16時半の浜は、まだ炎天下であったため、3作品目に変更になりました。それにより真夏の厳しい光が弱まった黄昏時の光が、より作品を引き立たせてくれる結果になりました。

それぞれ3人が犬島で受けたインスピレーションを形にした全く異なる雰囲気気の3作品。何もかもがそろう都市ではなく、過疎化の進んだ瀬戸内海の島、かつて日本の近代化を支え、今度は再び現代アートによって貢献している数奇な運命のこの島で、常設出来ないコンテンポラリーダンスというアート作品を上演させていただけことは、アーティストの一人として本当に幸せなことですし、本来のアートの在るべき姿と感じます。これからも色々なアートを通し、犬島で出会ったお元気の島民の皆様と、島を訪れる若い人たちの交流がさらに盛んになっていくことを信じています。



A：ダンサーの呼びかけに島の人々や観客も加わったフォークダンスで開幕
B：湯浅永麻とミゲル・オリベイラのデュオは碧い海とジョパンの旋律をバックに
C：建築の秘めたる魅力を引き出した柳本雅寛のダンス
D：石材積出し湾の水際を舞台に選んだ楠田健造

湯浅永麻 Ema Yuasa

Nederlands Dans Theater1(NDT1)所属。イリ・キリアンをはじめ、ウィリアム・フォーサイス、マッツ・エック、オハッド・ナハリ、ライトフット・レオン、クリスタル・パイト、ヨハン・インガー、ウェイ・マクグレガーなど、数々の振付家のレパートリー、または新作に参加し踊る。ヨーロッパで活躍する様々な有名ダンサーと競演し好評を博し、ヨーロッパを始めアメリカ、アジア、オーストラリアなど、世界各国の舞台で活躍している。



Photo all by ; Daisuke Aochi

「犬島 海の劇場」 ―― 今後の予定 ――

新作野外劇「内海のクジラ Whales in the inland Sea」 作・演出：坂手洋二
9月22日(土・祝)・23日(日) 13:30 ～ 14:50 [会場]犬島・西ノ谷湾岸

日本初演・島の劇場「天使バビロンに来たる」 演出：中島諒人

11月3日(土・祝)・4日(日) 13:20 ～ 15:00

[会場]犬島アートプロジェクト「精錬所」内 近代化産業遺産 発電所跡

豊後高田市は大分県の北部、国東半島の北側に位置する人口2万4千人、面積210平方kmの小さな市です。

レトロな雰囲気の昭和の町が人気を呼び、多くの観光客が訪れていますが、同時に『昭和の町は教育のまちです』をテーマに、子どもたちの学びの機会を保障する『学びの21世紀塾』を開き、その結果、学力が大幅にアップしたため、全国から注目を集めています。

『学びの21世紀塾』は、市民と行政が一緒になって子どもたちに学びの機会を提供する学習塾のようなものです。幼稚園児から中学3年生までを対象に、市の施設や公民館、学校において放課後や土曜日を中心に一般市民や退職校長等が指導しています。教職員や市の職員もボランティアとして協力しています。

寺子屋講座の見学

毎月第1・3・5土曜日の午前中、市内の保健センターや公民館等を会場に、幼稚園から中学3年生までを対象に英語・算数・数学・国語等の講座の他、合唱・パソコン・そろばん等の講座も開かれています。子どもたちは希望する講座を選び、午前中は学習に集中し取り組んでいます。指導者は、外国居住経験がある市民が英会話を、数学・国語は退職校長、合唱は音楽教諭、パソコンは文房具店店主、そろばんは塾経営者などと多数の市民が関わっています。教職員や市の職員は、受付や会場準備等のお世話をしています。



中学校の授業に合わせた自作の問題集を使い
学習する寺子屋講座



幼児対象の英会話教室



教職員や市の職員がボランティアとして出欠を確認

福武教育文化振興財団では、岡山県で学力向上の取り組みを進めるうえで、豊後高田市の実践には学ぶべきものが多いと考え、6月と7月に、県内の市町部局や教育委員会の職員の方々と訪問し、子どもたちの学びの姿を視察してきました。

地域で支える市営「塾」

豊後高田市から

寺子屋プラチナ館の見学

月・火・木・金の週4日、桂陽小学校（児童約260人）4年生以上の希望者が放課後プラチナ館（市の老人福祉施設）に集い、宿題や漢字ドリルなどを自主学習しています。地元の高校生もボランティアとして学習の手助けをしています。退職校長会会員がお世話をし、出欠や勉強の内容を確かめています。



寺子屋プラチナ館での学習の様子

視察に参加して

真摯な姿勢や教員OBの熱い思いに感銘

笠岡市教育委員会 教育長 浅野文生

先日は、豊後高田市視察にご案内いただき誠にありがとうございました。
市民総ぐるみで学力向上に取り組んでいる現実を目のあたりにして、豊後高田市の教育長の真摯な姿勢や教員OBの熱い思い、高校生ボランティアの表情等感銘を受けました。
笠岡市も他市と同様多くの課題を抱えておりますが、思いを巡らせているプランもあり、視察からの刺激を活かしていきたいと思っていますところでございます。

学力問題への対応として学ぶべきものが

公益財団法人 福武教育文化振興財団 常任理事 宮野正司

豊後高田市が、このような10年間の取り組みを通して飛躍的に学力を向上させた要因としては、先ず現市長のリーダーシップが挙げられます。少子高齢化が進む地方都市にあって、若者に魅力ある街づくりを進めるためには、産業や観光の振興に加え、安心して子育てができる教育環境は不可欠です。次代を担う子どもたちの教育を、市の重要施策として一貫して推進してきた市長の存在は特筆すべきものがあります。
次に、市民の間で、子どもたちが最優先で取り組むべきことへの共通理解ができたことです。最優先すべきは、従来から「読み・書き・そろばん」と言われてきた『勉強』であるとの認識で足並みを揃えたことです。
そのうえで、行政と市民が協力して実行委員会を組織し、『学びの21世紀塾』として、年々子どもたちの学校外での学習機会の拡充を図ってきました。指導者として、退職教員が大きな役割を果たしています。
その結果、子どもたちは着実に学習習慣を身に付け、学力調査で大分県トップの成績を収めています。
こうした豊後高田市の取り組みは、本県の深刻な学力問題への対応として、大いに学ぶべきものがあります。財団としては、こうした先駆的な取り組みに学び、真剣に学力向上に取り組む市町村への支援を積極的に進めていきたいと考えています。

『学びの21世紀塾』一覧表

講座名	対象学年	内容
寺子屋講座	幼・保～中3	算数・そろばん・英会話・数学・国語・英語から子どもたちが希望の講座を選び学習
パソコン講座	小1～6	マウスレッスンからインターネット等の高度な技術までを学習
水曜日講座	中1～2	部活動のない水曜日の放課後の時間に学習補充のため、主として数学と英語を開講
寺子屋昭和館 寺子屋プラチナ館 (放課後学習支援)	小4～6	週4日、放課後2時間、その日の宿題や授業の予習・復習などに取り組む
テレビ寺子屋講座	小学生～中学生	地理的なハンディキャップにも配慮して、家庭で受講できるよう市のケーブルテレビ網を活用して学習講座を放送
夏季・冬季 特別講座	中3	夏季・冬季の長期休業日に1週間、高校受験に向けて集中的に学習に取り組む
幼稚園講座	3～5歳児	英会話・文字の入門期の学習に取り組む講座

「教育のまち豊後高田市」の教育

豊後高田市教育委員会 教育長 河野潔

豊後高田市では、『学びの21世紀塾』を開塾し昨年10周年を迎えました。
この事業は「未来を拓く人材育成」を目標として、児童生徒の「学び」を第一に、子どもたちに「あらゆる教育の機会」を提供することでした。当初は「無理なこと」と否定的な意見もありましたが、関係者の努力により意識改革と理解が進みました。
『学びの21世紀塾』の取り組みは、本市が掲げる『昭和の町は教育のまちです』事業の柱として市民の皆さんに定着し、子どもたちの教育に大きな成果をあげてきています。発足当時は、誰も予想しなかった成果です。
現在、『学びの21世紀塾』は全国から注目されるまでに発展し、学校現場の意識改革も進みました。高い意識を持った本市教職員は、私にとってはかけがえのない存在です。また、それ以上に地域、市民の皆様の支えで、本市の教育は今日の姿になったと、改めて実感しています。これからも市をあげて教育に挑戦し続けていきます。

学校でひらく舞台芸術教室

角山小学校、竹枝小学校での魅力的な授業

平成23年に福武教育文化振興財団創立25周年記念事業の「学校でひらく舞台芸術教室」(以下「舞台芸術教室」)のお話を、NPO法人アートファームから角山小学校にいただいたことが始まりでした。本校は小規模複式学級で、小さな学校の子どもの仲良い集団が、中学生・高校生と西川アイプラザで元気な創作演劇を発表できました。

平成24年は取り組みを同規模の竹枝小学校に広げ、一方は創作ダンス「竹枝の四季」もう一方は創作劇「国語であそぼ」を発表し合い、体育の授業でも交流しました。

東日本の児童を迎えた幅の広い竹枝小、地元っ子ばかりの角山小という違いがありますが、両校の児童は、地域に育てられるという環境は似ています。「舞台芸術教室」で北村講師や角講師の授業を受けるうちに、持ち前の学年の隔てのない家族のような集団の団結力が花咲く発表になりました。子どもたちどうし、心を開いて楽しい時間を共有することができました。この事業を享受できたことに感謝し、夢は他の小規模複式2校に広げていくことです。

平成23年は、新学習指導要領に沿った新しい教科書の導入年であり、言語活動の充実がクローズアップされました。「舞台芸術教室」のお話を角山小学校にもたらされたのが、まさにこの年でした。

アーティストによる演劇指導は、教師とは異なる観点で児童の心をつかむ魅力的な授業であり、小学生から高校生による発表の中で、元気のよい創作演劇発表につながり、小さな学校の仲良い集団の力を教える試みでした。

平成24年は、竹枝小のダンスと角山小の演劇で表現力の成果発表の交流に広げてくださいました。本質より視覚的インパクトが重要にされがちな昨今、子どものコミュニケーション能力の向上こそ、未来を「生きる力」に必須なものです。「舞台芸術教室」は見える成果を用意するには評価研究が必要ですが、子どものいきいきとした瞳が「舞台芸術教室」の必要性を現し、小規模複式で学ぶ児童のコミュニケーション育成につながったと確信しております。(岡山市立角山小学校 校長 藤田京子)

竹枝小学校「竹枝の四季」



角山小学校「国語であそぼ」

財団では、岡山県の教育に大きく貢献した福武哲彦氏(福武書店創業者・現ベネッセホールディングス)と、谷口澄夫氏(元兵庫教育大学学長・当財団初代理事長)の功績を顕彰し、さらに教育を推進するために福武哲彦教育賞、谷口澄夫教育奨励賞を設けています。今年度の受賞者は次のとおりです。

福武哲彦教育賞



学校法人就実学園 理事長

千葉喬三氏

平成13年に岡山大学副学長、平成17年に国立大学法人岡山大学長に就任され、岡山大学教職大学院の創設をはじめ、理工系、医歯薬系、人文社会系、教育系すべての研究科において斬新な教育体系を取り入れるなど、積極的に大学改革と先進的施策を推進されました。岡山大学退官後の平成23年からは学校法人就実学園理事長に就任され、岡山市初の「こども園」を開園されるなど、一貫した私学教育の充実・発展に尽力されています。

谷口澄夫教育奨励賞



美作市立梶並小学校 非常勤講師

安藤由貴子氏

平成17年より美作地方の歴史や先人について自らていねいな聞き取りや現地調査を行われ、郷土愛に満ちた絵本を数多く制作されています。作品は子どもたちが故郷への愛情や理解を深める大きなきっかけとなっています。



山陽学園大学 教授

佐藤雅代氏

平安中期から院政期にかけての和歌の表現史の解明について熱心に研究に取り組まれるとともに、平成13年からは市民を対象とする各種の教養講座の講師を積極的に務められ、広く日本古典文学に対する興味・関心を呼び起こされました。



倉敷市立味野中学校 教諭

松尾綾子氏

中学校演劇部顧問として情熱を持って学校演劇の脚本づくりから舞台演出まで一貫して取り組み、子どもたちの表現力の向上に大きく貢献しておられます。また演出家、シナリオ作家としても全国的に活躍されています。

未完の一枚

文：大森誠一

写真：青地大輔

夕暮れとは名ばかりの強い西日に晒されながら、水辺を舞台に踊る4人のダンサーたち——。犬島の南部に2つの岬に囲まれた湾があり、本年7月、このロケーションを生かして演じられたダンス作品『たまゆら』の一場面である。裏話をすると、撮影されたダンスシーンは本番の公演では披露されることがなかった。前日に行われたゲネプロの一場面であり、リハーサル後に私とダンサーが協議した末、振付変更となった未完のシーンである。

この湾岸を会場に選んだ楠田健造(写真右一人目)は、木佐貫邦子や近藤良平ら日本の新しいダンス表現に傾倒し、渡欧後も独自の宇宙観・世界観にもとづいた身体表現を続けている。前日のゲネプロから一変した楠田の作品「いぬじまのかけら、こけらのけむりのはな」は、犬島の風景に一人ひとりのダンサーが溶け込み、ソロを演じる楠田の身体は、砂にまみれ、波にもまれ、陽にやかれ、海辺に打ち揚げられた一つの流木のように途方にくれて屹立していた。西洋のダンスで開花した身体が、ここ犬島の風景の中で日本の舞踏なるものの深遠に触れたような一瞬＝たまゆらであった。

楠田はいう。「自然への畏敬。犬島にきて僕たちがもっとも強く感じた心境です」。踊るとか、演じるとか、表現することへの本質について、犬島の自然は多くの試練と発見をアーティストに与えてくれるようだ。

おもりせいいち／プロデューサー、NPO法人アートファーム理事長。1950年岡山市生まれ。92年以降「岡山河畔劇場」「岡山舞台芸術ゼミナール」演劇ユニット「水蜜塔」など、創造・育成・鑑賞・交流事業を通じて地域の舞台芸術環境づくりに取り組むとともに、県内外の自治体や公立ホールの自主文化事業、アーツフェスティバルをプロデュース。2002年福武文化奨励賞受賞。

Editor's Comments

▼今年の福武哲彦教育賞には岡山大学前学長で就実学園理事長の千葉喬三さんが受賞されました。豊かなアイデアと確かな決断で岡山県の教育に貢献されたことが評価されての受賞でした。また教育奨励賞には、郷土史を題材に絵本を製作し、ふるさと授業を展開する安藤由貴子さん。古典文学を大学から飛び出して市民に広げる活動が続ける佐藤雅代さん。中学校での演劇指導で生徒の表現力を高めている松尾綾子さんの3人が選ばれました。女性ばかり3人で、しかも正規の授業から抜け出したところで評価された今年の教育奨励賞。評価の広がりを感じさせる選考でした。

▼創立25周年記念事業「犬島・海の劇場」。今年はオランダのダンシングチームNDTのメンバーによる「たまゆら」で幕を開けました。100年前の銅の製錬所による繁栄とわずか10年での消滅。人間の身体を限界まで高めて人生の哲学を表現し、わずか2時間足らずで消えてしまうダンスという藝術。犬島という島の中で、過去と現在に共通する刹那。そのはかなさが人々の心を打ちました。

▼「学校でひらく芸術教室」。2年目の今年は「角山小学校」と「竹枝小学校」という小規模校が対象。東日本大震災の影響で、東北や関東から竹枝小に移住してきた児童たち。全校23人だった児童数は一挙に36人に増えました。外で遊べなかった子どもたち。すぐさま建部の自然に溶け込みました。そして経験した創作ダンス『竹枝の四季』。プロのダンサー北村成美さんの巧みな指導で、見事な表現力を身に付けました。一方地域の団結力によって、学年の枠を越えて家族のような角山小。全校児童34人。近松門左衛門賞なども受賞している劇作家角ひろみさんの指導による創作劇「国語であそぼ」に取り組みました。「小規模校の子どもは消極的」よく指摘される言葉。交流発表会で見せたふたつの小学校の元気さは、その言葉を吹き飛ばしました。

▼“岡山県の教育と文化の担い手を応援したい！”私たちの掲げている方針です。公益財団となって、ますます皆さんと近くなっています。気軽にお話したいと思っています。(財団・S)

季刊

不易

F U E K I vol.47 2012.9.1

編集・発行：

公益財団法人 福武教育文化振興財団

〒700-0807 岡山市北区南方3-7-17
株式会社ベネッセコーポレーション本社3F
TEL 086-221-5254 FAX 086-232-3190
URL <http://www.fukutake.or.jp/>
E-mail eczaidan@fukutake.or.jp

制作：
株式会社 吉備人
デザイン：
田中雄一郎(QUA DESIGN style)
印刷：
広和印刷株式会社